

記 事

研究学会発表記録

昭和30年12月～昭和31年11月の一年間に学会報告したものは次の通りである。ただし本誌に収録したものは含まない。

I 学 会 誌 発 表

(a) 薬学雑誌

- 嶋野武, 水野瑞夫, 大和新一郎: 麻黄中のアルカロイドの簡易定量法について, (76, 860 (1956)).
- 嶋野武, 水野瑞夫, 足立郁夫: トリテルペノイドの研究(第9報)夏枯草の新成分について, (76, 946 (1956)).
- 中沢浩一, 坪内幸恵, 榎田康衛: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究(第8報)6-アセモル-5,7,4'-トリメトキシフラボンの脱メチル化反応, (76, 1204 (1956)).
- 大野武男: モノニトロフェノール類の水銀化反応に関する研究(第1報), (76, 713 (1956)).
- 大野武男: ジニトロフェノール類の水銀化反応に関する研究, (76, 718 (1956)).
- 大野武男: ニトロナフトール類の水銀化反応に関する研究, (76, 722 (1956)).
- 大野武男: ジハイドロオキシベンゼン類のニトロ誘導体の水銀化反応に関する研究, (76, 726 (1956)).
- 大野武男: サリチル酸および8-オキシキノリンのニトロ誘導体の水銀化反応に関する研究, (76, 729 (1956)).
- 大野武男: Dinitrohydroxyphthalein 類の水銀化反応に関する研究, (76, 733 (1956)).
- 鍛冶健司, 長島弘: 混合アシロイン類の合成研究(第1報), 芳香族アルデヒドシアンヒドリンと対するアルキル Grignard 試薬の反応 (76, 1247 (1956)).
- 鍛冶健治, 長島弘: 混合アシロイン類の合成研究(第2報), 芳香族アルデヒドシアンヒドリンイシノエステルに対する Grignard 試薬の新反応 (76, 1250 (1956)).
- 奥田高千代: アルキル化剤としての Mannich 塩基に就いて(第1報), (76, 1 (1956)).
- 奥田高千代: アルキル化剤としての Mannich 塩基に就いて(第2報), (76, 4 (1956)).
- 北村二郎, 栗本珍彦, 横山復次: 黒変米菌代謝産物について, (76, 972 (1956)).

(b) 薬剤部長会年報

- 加藤好夫: ポリエチレングリコールアルキルエステルの合成とその製剤学的利用研究, (15-(4), 20 (1955)).

(c) 公衆衛生年報

- 小瀬洋喜, 桑山敬一, 後藤礼司, 橋本紀男: 学童の食物嗜好に関する調査(第1報)(3-(1), 59 (1955)).

II 学 会 誌 投 稿 中

(a) 薬学雑誌

- 鍛冶健司, 長島弘: 混合アシロイン類の合成研究(第3報), メトオキシマンデロニトリルに対するメチル Grignard 試薬の反応.

(b) 公衆衛生年報

- 佐久間礼三郎, 石川潔: 屋内空気の汚染度について.

Ⅲ 学 会 講 演

(a) 日本薬学大会 (1956年4月)

- 嶋野武, 水野瑞夫, 井上純夫: トリテルペノイドの研究 (第7報) 濾紙微量電気泳動法によるトリテルペノイドの検討 (3).
- 嶋野武, 滝和子, 河西明夫: トリテルペノイドの研究 (第8報) ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイドの検出について (2) Ericaceae 植物中のトリテルペノイドの分布について.
- 嶋野武, 野村新太郎: 雌雄異株生薬の剖見 (第1報) Trichosanthes 属二三の植物に就いて.
- 長瀬雄三, 井口正信: デルマトールおよびその近縁物質のポーラログラフィ.
- 長瀬雄三, 松本朝: ナフトキノン誘導体の有機試薬への利用研究 (第4表) 6,7- および 5,6-ジヒドロキシ-1,4-ナフトキノンについて.
- 高取吉太郎, 山田保雄, 酒井勇: 含弗素抗ヒスタミン剤合成の研究 (第1報).
- 高取吉太郎, 山田保雄, 河野隆一: ペーパークロマトによる正常および DAB 投与ラット尿中アミノ酸の検出.
- 佐久間礼三郎, 石川潔: 動物筋肉中のビタミン B₂ について.
- 広瀬一雄: メルカプトキノン誘導体の大腸菌に対する呼吸阻止作用.
- 奥田高千代: アルキル化剤としての Mannich 塩基に就いて (第3報).
- 小瀬洋喜, 北村藤四郎, 森下正三, 金原昭: 学童の嗜好に関する考察 (第2報).

(b) 第5回日本薬学会東海支部薬学大会 (1956年11月)

- 宮道悦男, 小瀬洋喜: 薬科大学生の衛生試験法実施成績に対する推計学的考察 (第2報)
- 宮道悦男, 小瀬洋喜: 栄養処方箋の提唱
- 嶋野武, 水野瑞夫, 足立郁夫: トリテルペノイドの研究 (第11報) キリケイの新成分について.
- 加藤好夫, 杉浦衛: 軟膏基礎剤の研究 (第1報) 滲透性の増強について
- 千田重男, 鈴井明男, 加納三代子, 坪田順子: ウラシイル誘導体の研究 (第5報) デメチル-2,6-ジメトオキシピリミジンのニトロ化について.
- 佐久間礼三郎, 戸田恭子: 薬物投与のビタミン B₂ 代謝に及ぼす影響
- 奥田高千代: アルキル化剤としての Mannich 塩基に就いて (第4報).
- 小瀬洋喜, 北村二郎, 丹羽早起, 稲見敬一, 渡辺喜儀, 林金恵: 学校環境の基礎的研究 (第1報).
- 小瀬洋喜, 白木有之, 杉山恵規, 杉山良朗: 食品衛生監視表の採点法に関する批判.

(c) 日本薬学会東海支部例会

- 嶋野武, 滝和子, 杉浦正和: トリテルペノイドの研究 (第10報) ウコギ科のサポニンについて. (1956年9月).
- 長瀬雄三, 河合洋: イオン交換樹脂を用いる医薬品分析法の研究 (第2報) 有機カルシウム塩の定量法 (1956年6月).
- 高取吉太郎, 山田保雄: ズルフォンアミド剤合成の研究 (第7報) アセトントリルよりキアンメチン生成条件の検討 (1955年12月).
- 高取吉太郎, 山田保雄: ズルフォンアミド剤合成の研究 (第8報) 含弗素ズルファベンツアミド系薬物の合成 (1956年2月).

- 千田重男, 鈴井明男: ウラシイル誘導体の研究 (第3報) 1-シクロヘキシイル-3,4-ジメチルウラシイルの合成 (1955年12月).
- 千田重男, 鈴井明男: ウラシイル誘導体の研究 (第4報) 4-メチル-2-チオウラシイル およびその誘導体のアルキル化について (1956年2月).
- 松本 潮: 二価フェノール類とマレイン酸, コハク酸無水物との反応について (1956年2月).
- (d) 生薬学会
- 嶋野武, 野村新太郎: 雌雄異株生薬の剖所 (第2報) Rumex 属について (1956年9月).
- (e) 日本家政学会総会 (1956年10月)
- 小瀬洋喜, 高井富美子: 調理の基礎的研究 (第1報).
- 小瀬洋喜: 草木染の基礎的研究 (第1報).
- (f) 東海公衆衛生学会総会 (1956年7月).
- 宮道悦男, 小瀬洋喜: 薬科大学生の衛生試験法実施成績に対する推計学的考察 (第1報)
- (g) 東海体育学会 (1956年10月)
- 林 領一: 大学における疾病並びに特殊学生の取扱い方法
- (h) 東海地区一般教育研究会
- 林 領一: 学生競技会開催期日について検討 (1956年5月)
- 小瀬洋喜: カリキュラム, コースプラン発表機関の設置について (1956年5月).
- 小瀬洋喜: 専攻科目と同一課目の一般教育における取扱い方について (1956年11月).